



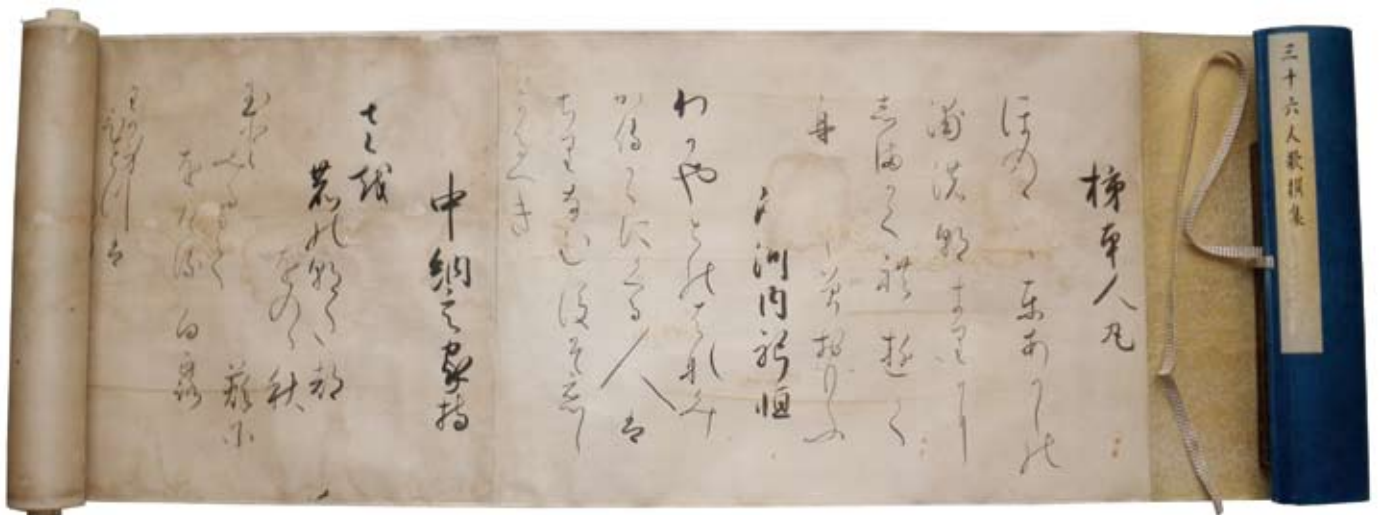
8 卷子本装『大般若波羅密多經 卷第一百六十七』一巻

筆者・刊期年不明、書写文字・料紙から鎌倉初期写か？

本紙：楮紙（楮 100%、萱簀溜漉き、0,14 mm厚、黄檗染め、膠塗布打紙加工

現寸法：縦八寸七分（264）× 横一尺二寸九分（391）・全長二十八尺一寸三分（9287）、本紙丁数二十二丁

この書は、書写文字と料紙状態から鎌倉初期写と考えられる書で、原装時は卷子本であったが、見開きが不便なために折本に改装されていたが、折本時の旧装が判るため原装の卷子本に戻したものである。



9 卷子本『三十六人歌撰集』一巻

尾形宗謙（1621—1658、尾形光琳・乾山の父書写か？

本紙：鳥の子紙（雁皮 100%）、0,09 mm厚、填料米粉入、礬水塗布打紙加工、霞草花蝶金泥絵描き

寸法：縦八寸七分（264）× 横一尺寸分（264）、全長二十四尺三寸（7363）

料紙の鳥の子紙に金泥で絵が施されており、料紙状態と書風が光悦流とのことで、江戸初期の光悦流の能書家の尾形宗謙ではないかとのことである。